

第1回とちぎ農業女子トーク&カフェの結果概要

1 日時 令和4年8月8日(月) 11時00分~12時30分

2 場所 ミナテラスとちぎ

3 出席者(敬称略)

コーディネーター: 山口あや

女性農業者: 横山玲子、西岡智子、小林千歩、吉村慎子

消費者、他産業事業者: 石川恋、鈴木美愉、竹澤尚美、小林拓馬、上村真己

4 テーマ 女性目線での農業の魅力や可能性を語る

5 主な意見等

【女性視点での農業の魅力発信】

○「農業」や「農業という職業」についてのイメージ

- ・力作業や地味な作業があるが、収穫の喜びがあり、成長の過程から愛着を持ち、達成感がある。食ロスなど、食に対する考え方が変わった。力仕事、手が荒れる、日焼けなど、身体的な負担はある。
- ・小さいころの体験がきっかけ。農業は実際体験しないと魅力は伝わらない。食(調理)が好きで農業に興味があった。
- ・草むしりが楽しい、動物が好き、農業はゼロからいろいろ作れる。農家に嫁ぎたいと考えていた。仕事にするからには収入を得なければいけない。
- ・体力的にきつい、休みがない、定期的に収入が得られないという面もある。重たいものは男、細かい仕事は女性など、男女で協力して補いながら仕事ができる。

○農業のやりがいや面白さ

- ・農業のやりがいは自分で掘り下げていくもの(見つけていくもの)。農業は作るだけでなく、体験を売ることもできる。農業はどんな仕事とも関われる。
- ・農業は自由であり、好きなことができる。ただし、農業を始めるまでが大変。特に新規参入は農地がなかなか見つからない。
- ・農家の顔が見えると応援したいという気持ちになる。

○情報発信

- ・小学校での職業体験など、まずは地域の方（身近なところ）へ発信することが効果的。SNSは興味がないと見られない。
- ・男性社会の職業にも徐々に女性が進出してくるようになった。細かな配慮、女性が入ると場が和むなど、女性の存在は重要。
- ・ポジティブなイメージで魅力を発信する必要がある。一方で、イメージと現実のギャップが生じないように、リアルな農業も伝えていくべき。

【農業で女性が働きやすい環境づくり】

○農業に携わる中で感じる難しさ

- ・農村地域は男性社会が根強く残っているところもある。孤立しないように、仲間づくりや地域内のサポート体制が必要。
- ・農業参画に意欲的な女性を地域で応援する仕組みが必要。ステップアップしていくためには、農業経営の知識やスキルの習得するための研修があるとよい。
- ・女性が働きやすい環境として、男女別のトイレ、着替えなどの整備が必要。公共事業では、女性が働きやすい環境づくりへの支援制度がある。企業努力だけでは難しい。
- ・農業体験はトイレない、着替えないが当たり前。休憩所、トイレ、シャワーなどが整備されていると楽しく体験できる
- ・農業は慣れてくると、時間の調整がきくので、家事・育児の両立がしやすい

【農業の可能性】

○女性ならではの強み

- ・細かな配慮（パッケージ、きれいに洗浄、販売の見せ方）
- ・6次産業化（加工）は女性の視点が必要
- ・8割は食事を作るのは面倒とっており、食卓と農業をつなげることが重要。
- ・SDGs（地産地消、健康や環境保全など）につなげられる

○女性の農業参画の促進

- ・農業の大切さや価値など、「農業だからこそできること」を発信していく。
- ・安易に農業をやろうとする方も多いので、情報は正しく伝えることが重要。マイナスの部分もあえて見せるなど、情報発信のやり方も変えていく必要がある。
- ・子どもたちの体験できる機会を増やし、農業の価値を高める、農家の思いを伝える場を提供する。
- ・レジャー農業や援農、半農半Xなど、多様な農業の関わり方があってよい。農家側としても、空いた時間などに気軽に農業を手伝える仕組みが必要。